

目次

序文

人の繋がりとふるさとへの想い
何にも増して大切だった故郷

川崎二郎
平井憲太郎

はじめに

略伝

- 1 江戸川乱歩略歴 …… 14
- 2 一頁自伝 …… 14
- 3 豆自伝 …… 16
- 4 私の履歴書 …… 17
- 5 父母のこと …… 28
- 6 七十年前の父の写真 …… 33
- 7 涙香の愛読者 母を語る …… 35
- 8 祖母に聞かされた怪談 …… 36

家族

家系

少年時代追懐

職業を転々す

暖国の気ままな勤め

- 9 彼 …… 40
- 10 こわいもの …… 46
- 11 祖先発見記 …… 46
- 12 上総介藤原兼重 …… 50
- 13 筆だこ …… 52
- 14 故郷に夏ありき …… 53
- 15 自治新聞ノ編集手伝イ 貼雑年譜 …… 56
- 16 大阪 加藤洋行店員 貼雑年譜 …… 56
- 17 考えふける時を求めて 若気のあやまち …… 57
- 18 僕の職業変遷史 …… 58
- 19 鈴木商店鳥羽造船所社員 貼雑年譜 …… 60
- 20 哀愁の秋 …… 61
- 21 鳥羽おとぎ倶楽部 貼雑年譜 …… 63
- 22 雑誌「日和」編集 貼雑年譜 …… 63

探偵作家の日々

妻

48	岩田準一 探偵小説四十年	107
47	岩田準一君の挿絵	106
46	父の死 探偵小説四十年	104
45	楽屋囁	102
44	大正十四年度 探偵小説十年	101
43	井上勝喜宛書簡	100
42	女房とわたし	97
41	私の結婚	96
40	妻のこと	92
39	恋病	90
38	東京市社会局吏員 貼雑年譜	89
37	村山隆卜結婚ス 貼雑年譜	88
36	中将姫	85
35	忘れ得られぬ美しい鳥羽の印象	84
34	あとがき	83
33	解説	83
32	幻影の城主	82
31	大正十五年(昭和元年)度 探偵小説十年	81
30	参与官と労働代表 最も印象に残った人	78
29	尾崎為次郎氏談	76
28	長野幹氏談	73
27	学問ノ夢 貼雑年譜	72
26	彫雑より統一へ	69
25	日和余誌	67
24	音楽会	66
23	首途	64

ふるさとの発見

49	昭和三年度 探偵小説十年 ……	108
50	精神分析研究会 探偵小説四十年 ……	110
51	衆道歌仙 ……	110
52	同性愛文学史 岩田準一君の思い出 ……	114
53	家族を疎開させる 探偵小説四十年 ……	115
54	関西行脚 ……	116
55	追放解除と川崎克先生 ……	120
56	序 後岩つゝじ ……	121
57	ふるさと発見記 ……	125
58	三重風土記 ……	130
59	名張・津・鳥羽 ……	133
60	津 お雑煮お国自慢 ……	134
61	生誕碑除幕式 ……	134
62	二銭銅貨 ……	138
63	先生に謝す ……	140
64	海草美味 ……	148
65	ふるさとの記 ……	150
66	白鳳城 古城にうたう ……	152
67	名張 ……	153
68	なつかしい坂手島 ふるさとへの年賀状 ……	154
69	赤目四十八滝 カラーお国めぐり ……	155
70	牛は松阪 味の散歩道 ……	156